

知多半田駅東ロータリー リニューアル基本構想策定 学生ワークショップ記録

日 時	令和 6 年10月 7 日（月） 16:15～17:55
参加者	17名
テーマ	どのように使いたいか考えよう！ 半田高校、半田商業高校、日本福祉大学に通う学生を対象に、 8 月、 9 月に実施したワークショップの内容を共有し、 学生の視点で具体的な広場の使い方を考える。

概要

知多半田駅東ロータリーのリニューアルに向けて、 8 月、 9 月に実施してきたワークショップに加えて、 さらに多様な視点からの意見を拾っていくために、 高校生と大学生を対象としたワークショップを開催しました。

今回は、 半田高校、 半田商業高校、 日本福祉大学のみなさんに参加してもらい、 これまでのワークショップの経過を紹介した後、 広場の使い方について意見交換を行いました。

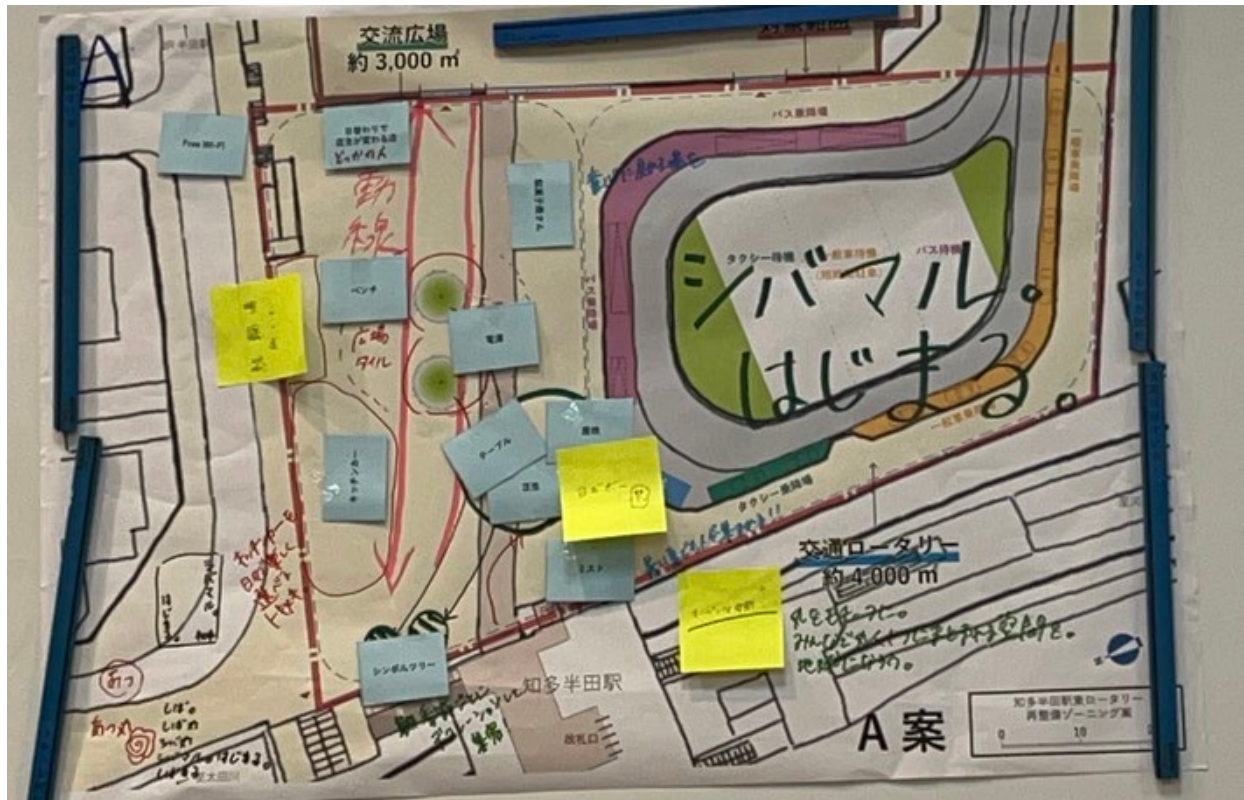
今回頂いた意見やこれまでのワークショップの結果、 個別のヒアリングで頂いた意見を踏まえて、 1 つの案を事務局で作成します。 その案をさらにみなさんで良くしていくために、 11 月の 6・7 日に 3 回目、 12 月 23・24 日に 4 回目のワークショップを実施していく予定です。



各グループのアイデア（A～D）

※写真下に記載したコメントは各グループの発表者による発表内容の要旨を記載しています

Aグループ（半田高校） シバマル。はじまる。（A案）



- ・キッチンカーは駅からも近く泉線を通る人も入りやすい場所に。2～3台並べたり、時々お店が変わったりすると、より楽しめると思った。
- ・連絡通路とロータリーの間に駄菓子屋をつくる。高校生や学生にとっては、コンビニよりも立ち寄りやすく財布にも優しいため、利用する人が増えると考えた。若者の興味を引く外装にすると、多くの人々が来てくれるのではないかな。
- ・クラシティ前のスペースは、日替わりで店主が変わる店というアイデアが気になった。クラシティにある「農家の嫁」と関連させて「どっかの子」という名前だと面白いという意見が出た。
- ・クラシティから既存樹を通る直線を動線にできるようにできたら良い。
- ・「シバマル、はじまる」の由来は、みんなが一つの円のように一緒に頑張っていく、一緒に休む広場になったら良いなという考えからつけた。
- ・樹木は移植せず、その周りに丸いベンチを作り、木にもたれかかってセンチメンタルな気持ちになったり、下に電源があればスマホを充電しながら、調べものもできたりする場所にしたい。
- ・クラシティの大きな窓から見たときに、心が惹かれる場所になってほしい。そのため、パラソルや机、丸い椅子があり、家族連れや友達同士、仕事の休憩でここに来るということを考え、Yogiboがあるなど、街中の芝生のピクニック場のような、ちょっとした非日常の雰囲気味わえると良い。
- ・ミストを全体的に設置して、夏も涼しさを感じられるように。駅側にシンボルツリーとして大きめの樹木を植えて、クリスマスにはクリスマスツリーにするなど、季節ごとに写真を撮るような場所を作りたい。

Bグループ（半田商業高校） こっちもコリン（A案）



- ・コンセプトとして、自然が感じられる空間と、遊園地のような場所と、学校帰りに寄れるような場所を考えた。
- ・学校帰りに寄れる場所として、例えば部活の後に休める場所と、屋台やファストフード店があると、立ち寄りやすいと考え、駅から広場に入ったところを飲食スペースとしたい。
- ・飲食スペースには、ベンチやテーブルなどを置き、充電できるスポットもあれば、高校生や他の人でも使いやすいと思う。
- ・遊園地のような場所としては、半田運動公園にある大きい滑り台よりは小さいが、連絡通路から一気に滑るような大きな滑り台を作りたい。また、ボールプールを作って子供が騒げる場所にしていきたいと考えた。
- ・全体的に芝生を敷き、既存の2本の樹木周りに季節の花を植えて、自然を感じられるようにしたい。
- ・テーブルとボールプールがあるスペースには、夏の暑さや日差し対策になるように屋根を設置したい。
- ・名前は、おおまた公園の向かい側にコココリンという施設ができるため、それをもじって、「こっちもコリン」とした。

Cグループ（日本福祉大学） （A案）



- ・親子世代が休める場所を前提に議論が進んでいった。クラシティのカフェに売っている商品を外に出て食べられること、クラシティ前が日陰にもなるという話を聞き、外でも飲食しやすいように、クラシティ前にベンチとテーブルを設置した。
- ・また、泉線側には、道路を歩く人が少し休んでいこうと立ち寄りやすい場所になるように、屋根付きのベンチを置きたい。また、屋根からミストが出ると、子どもたちの興味を惹き、人が集まりやすいのではないかと考えた。
- ・同じく泉線側に、キッチンカーや屋台が週末だけでも並ぶと、立ち寄った人たちの目が留まりやすいと考えた。
- ・広場の中央に円形のステージがあると、象徴的になると思う。ここにみんなで落書きができるピアノがあったり、音が出たりすると、目に入りやすいと思った。
- ・連絡通路が知多半田駅の2階から繋がっていることから、そもそも広場を素通りされるのではないかと考え、連絡通路から広場に入るイメージで階段が設置されるといいのではないかと考えた。
- ・ロータリーは、コンクリートの通路で暗いと感じたため、広場は全面芝生にして、ロータリーとのコントラストがあると、より明るいイメージに繋がるのではないかと考えた。
- ・ロータリーは車やタクシーが走り、泉線も車が来るため、子どもたちの飛び出しがないように、ロータリー側と泉線側の境界に柵と入口があると良い。
- ・授乳室と24時間入れるトイレはクラシティの中に作るという案も出た。

Dグループ（日本福祉大学） チアーズスペース（B案）



- ・ 広場全体の名前は「チアーズスペース」とした。チアーズは、子育て応援や学生応援、乾杯！といったものをイメージした。
- ・ 広場の上と下でコンセプトを分けた。クラシティ側のチルススペースは、高校生以上の層が集まるというコンセプトで、カフェを中心に、カフェの受注スペースや服屋、図書館、本屋を入れて、高校生が放課後に集まったり、お昼に高齢者が集まったりできるスペースとした。
- ・ もう一つは、テラスを作り屋外でも利用できると良いのではないかと考えた。高校生が集まることを考え、フリーWi-Fiや電源があると自習スペースになり、学生も活用しやすいのではないかと考えた。
- ・ 駅側はチャイルドスペースという子供が遊べるスペースとした。子供が遊べる空間は大事に作りたいと考え、芝がある。遊具で遊びたい人は近くのこうせい公園で、この広場ではボール遊びやかけっこ、遊具がない自由な空間で遊ぶということをメインにしたいと思う。ただ、ボール遊びは少し危険という考えもある。
- ・ 子供が遊ぶ空間には保護者が必要と思うため、ベンチやテーブルを設置したい。クラシティ側のカフェで買った商品を食べながら、親同士が話しながら見守る形にできるといいのではないかと考えた。
- ・ 交通ロータリーと広場の間に、子どもが飛び出さない柵を作って区切りたい。

講 評 ※地域力創造デザインセンター 高尾忠志

- ・市民の方々が日常的に使い、居心地が良い空間にしたいという大きな方向性が共有されていた。大人の参加が多かったワークショップでも、今回と共通した意見が多く、同じ方向性で進んでいけると感じた。
- ・ただ、みなさんにとって居心地の良いスケール感や素材感、見え方などと、大人のおじさんが考えるものには、おそらく少しズレが出てくるのではないかと思います。我々おじさんたちが間違っただ道に進まないように、ぜひ今後もこの議論に参加してもらいたい。
- ・みなさんや、みなさんの後輩たちに、中学生から大学生までの学生時代、半田のまちで過ごしてよかったな、半田で育ってよかったなと思ってほしい。学生のみなさんにとって、ここが良いまちになることが半田の未来にとっても大事だと考えている。一度広場を変えると、30年から50年ほど使い続けることになるため、30年、50年先の未来にもこの駅前広場が、来る人にとって居心地の良い場であり続けるために、上の世代、若い世代の話を聞いて、みなさんにとって居心地の良い場所を目指していきたいと思う。